安井鍼灸整骨院　子宝 NEWS 44　男女産み分け方法

赤ちゃんの男女産み分けは 100%可能か？

男女どちらが生まれるかという成功率は、産み分けを希望する人にとって、もっとも関心のあることでしょう。しかし、専門医が科学的に立証した産み分け法を実践しても、残念ながら 100%成功するとはいえません。
最近のデータをみてみると、男の子を希望した人で 81～91%、女の子を希望した人で 70～80%の成功率です。

オルガスムスと産み分けの関係

女性が性交によって快感をおぼえてオルガスムスに達すると、子宮頸管から強いアルカリ性の液が分泌され、膣内が酸性からアルカリ性に傾く、といわれています。しかし、膣の酸性度には個人差があります。膣内は通常は酸性ですから、女の子を希望する場合は女性がオルガスムスを感じないでセックスをしたほうがよく、男の子を希望する場合は女性がオルガスムスをできるだけ感じたほうが条件がよいといえます。

性交日と産み分けの関係

普段は酸性をしめす膣内が、排卵日に近づくとアルカリ性になることと、X 精子・Y 精子の性質を考えると、性交する日を選ぶことである程度の産み分けができるかもしれないと考えられます。
女の子を望む場合、排卵日の 2 日前に最後の性交をし、それ以降 1 週間は禁欲、あるいは避妊します。男の子を望む場合、排卵日までは 5 日間くらい禁欲し、排卵日当日に性交、排卵日を過ぎたら避妊します。

ピンクゼリーとグリーンゼリー

ピンクゼリー・グリーンゼリーというのは、膣内の酸性度を人為的にコントロールする、産み分け用のゼリーのことです。産み分けを希望する場合、膣内が酸性かアルカリ性かというのは、とても重要なことになります。そこで考え出されたのが、酸性のピンクゼリーとアルカリ性のグリーンゼリーです。このゼリーは、性交時に膣のなかに入れて使うものですが、性交による激しい運動を繰り返しても、化学変化を起こす可能性はまずありません。しかも、もともとの原料がビネガーやベーキングパウダーといった食物ですから、副作用の心配もなく、人体に害もありません。

リンカル

リンカルというのは、男の子の出産率を高めるために服用する栄養補助食品です。リンカルは、微量の鉄分を含んだ天然カルシウムで、錠剤自体は副作用がない、一般のカルシウム剤です。本来は先天性異常を予防するために開発されたものですが、リンカルを飲んで新たに妊娠して生まれた子どもはすべて正常児であっただけではなく、ほぼすべてが男の子だったという結果が出ています。これがなぜ、男の子の出生率を上げるのか、現段階ではまだまだ研究中といったところです。

人工授精と産み分け

パーコール法という人工授精を用いた産み分け方法があります。パーコール法は、X 精子が Y 精子より重いことを利用した方法です。人工受精の際に、採取した男性の精子を遠心分離すると、重い X 精子が下層に、軽い Y 精子が上層に分離します。下層の精子を用いて人工授精を行うと女の子、上層の精子を用いて人工授精を行うと男の子を授かる確率が高まると考えられています。しかしながら、この方法でも X 精子、Y 精子を 100%分離することはできないため、100%の確率で産み分けできるわけではありません。希望の性別でなかった場合でも大切に育てることを前提として、処置を受けるようにしましょう。人工授精による不妊治療と妊娠の兆候について
人工授精とは生殖医療技術のひとつです。運動率の良好な精子を採取し、直接子宮内に注入することによって着床(妊娠)の実現を目指します。

カレンダーや食べ物よる産み分け

カレンダーによって産み分けをする方法もあります。約 700 年前に中国の科学者が集計した男女の出生記録をもとに作った中国式産み分けカレンダーを参考にして産み分ける方法で、赤ちゃんの性別を占う方法としても利用されています。また、ブラジル式産み分けカレンダーというものもありますが、発祥や起源は明らかになってい

ません。いずれにしても、カレンダーによる産み分け方法は科学的根拠を元にしたものではないため、占いやジンクスのようなものとして参考程度にとどめておいた方がよさそうです。また、食べ物によって産み分けを試みる方法もあります。酸性の食べ物、もしくはアルカリ性の食べ物を多くとることによって体内を酸性、もしくはアルカリ性に傾け、希望の性別を授かろうとする方法です。しかし、人の体には pH を一定に保とうとする機能が備わっているため、食べ物で体の pH を変えることは難しいと考えられます。食べ物による産み分け方法も参考程度にとどめておいた方がよいでしょう。

赤ちゃんの性別はいつ頃わかる？

赤ちゃんの性別は、妊婦健診の際にエコー検査(超音波検査)で外性器を見て判定します。性別がわかると、あらためて「ママになるんだ！」という実感がわきますが、外性器の違いがはっきりしてくるのは、妊娠 20～23 週(6 ヶ月)とされています。エコー検査は、ママのお腹に専用機器で超音波を発信すると、その反射信号が画像に変換され、モニターに映し出される仕組みです。放射線の心配がない安全性の高い検査ですが、赤ちゃんの向きによっては外性器がうまく映らない場合もあります。それでも何度かエコー検査を受けるうちに見えてくるでしょう。今はエコー検査も進化しており、赤ちゃんの形状を立体的に映し出せる 3D エコーや、赤ちゃんの表情や動きを観察できる最新の 4D エコーを導入しているクリニックもあります。お腹の中であくびをしたり、指をしゃぶったりする我が子を見ると、ますます愛おしくなりますね。エコー検査で妊娠が確認できたらすぐに検査できる NIPT(新型出生前診断)で性別判定も可能。赤ちゃんの性別をもっと早く知りたい人は、エコー検査で妊娠が確認できたらすぐに検査できる「NIPT(新型出生前診断)」を検討してみてはいかがでしょうか。これまでは、出生前診断として、絨毛検査や羊水検査などが行われてきましたが、これらは妊婦さんのお腹に針を刺すため、流産のリスクがあり、妊婦さんに大きな負担を与えるものでした。そこで、陰性的中率(検査で陰性の人が真の陰性である確率)が極めて高い NIPT が注目されているのです。NIPT は血液採取のみの検査ですので、母体への負担や感染症のリスクが少ないのが特徴です。NIPT の結果が陰性であれば対象の疾患を持っている可能性はほとんどないため、リスクのある絨毛検査や羊水検査を受けなくても良いと考えられます。さらに、NIPT では性別判定も可能です。NIPT ではエコー検査よりも 2 ヶ月ほど早く性別がわかります。エコー検査では胎児の性別を判別できるのは、一般的には妊娠 20 週頃ですが、NIPT ではエコー検査で妊娠が確認できたら判定が可能です。気になる方は、エコー検査で妊娠が確認できたらすぐに受けられる NIPT で、染色体異常の検査と合わせて性別判定を希望すると良いでしょう。

世界最高水準の NIPT

新型出生前診断（NIPT）とは、「お母さんから採血した血液から胎児の、21 トリソミー（ダウン症候群)、18 トリソミー（エドワーズ症候群)、

NIPT(新型出生前診断)で性別がわかる理由

NIPT(新型出生前診断)では、母親の血中に存在する胎児由来の DNA 断片を採取して、機械(シークエンサー)で解析することで染色体疾患を有している可能性を調べます。男の子と女の子の違いは性染色体によって決まります。NIPT で性染色体が XY(男の子)、XX(女の子)のどちらであるかを調べることで、性別を判定することができるのです。ただし、認証施設の NIPT では性別判定を取り扱いません。NIPT で性別を知りたい場合は、性別判定のオプションを取り扱っている非認証施設で検査を受けるようにしましょう。